

SDGs レポーター事業 実施レポート

学生×企業×SDGs

の今とこれからを
考えてみよう



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

実施目的

市内で SDGs の取組を推進する企業・団体を
学生が取材し、広く発信することで、それら
企業・団体の情報発信に寄与するとともに、
本事業を通じて学生の成長・交流を促していく
ことを目的としています。



学生×企業×SDGsの今とこれからを考えてみよう

イベント概要

静清信用金庫

～金融機関における取組～



静清信用金庫
中野 真吾さん



常葉大学
芹澤 南帆さん



東海大学
井柳 利功さん

「SDGsに取り組んでいる」と聞くと、何となく慈善事業のようなものをイメージするのではないかでしょうか？

しかし、事業で利益を得られなければ、持続可能な事業ではなくなってしまいます。座談会で、SDGsに取り組みつつ利益を得るにはどうすれば良いか考えます。

当日に向けて

① 取材先企業の決定

金融機関がSDGsにどのように関わっているのか非常に興味を持ち、取材先として静清信用金庫様を挙げさせていただきました。

② 静清信用金庫様へインタビュー@相談センター「kyoten」

7月29日にインタビューを行いました。静清信用金庫の強みである「そうだん力」を生かして地域の企業に向き合っていることを実感しました。

③ 座談会の内容の打ち合わせ・資料作成

当日の流れ

SDGsとは何か



静清信用金庫の概要



静清信用金庫のSDGs活動事例



グループワーク

グループワークテーマ

SDGsを切り口にしたビジネスは どのようなものが考えられるか

企業として事業を継続させるには利益が必要です。
同様に、SDGsでも利益が出るような活動であれば続けることができます。
では、どのような活動が考えられるのか、意見を出し合いました。

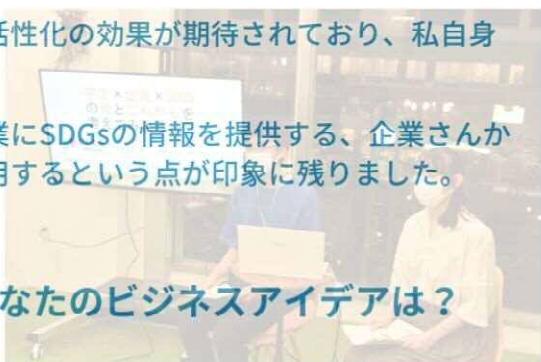


■登壇してみての率直な感想は？

- 【芹澤】 人前に出ることが苦手なので緊張していましたが、無事に終えられて安心しています。
- 【井柳】 グループワークをどのように回していくのかが難しかったです。また、さらに静清信用金庫の取り組みを知ることができて良かったと思います。

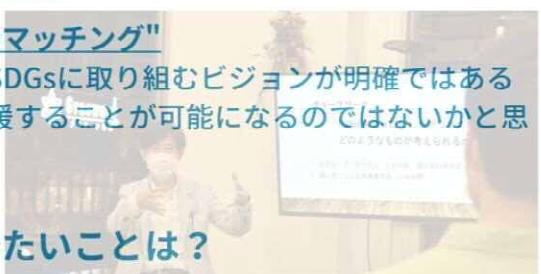
■座談会全体を通して、印象に残ったワードは何ですか？

- 【芹澤】 「地域通貨」です。地域通貨は地域経済活性化の効果が期待されており、私自身も非常に興味を持っています。
- 【井柳】 「情報提供」です。静清信用金庫から企業にSDGsの情報を提供する、企業さんから提供される情報を静清信用金庫が活用するという点が印象に残りました。



■信用金庫×SDGsを実現するためのあなたのビジネスアイデアは？

- 【芹澤】 "地域通貨"
飛騨地域で飛騨信用組合が発行している「さるぼぼコイン」は信用金庫で行うことも可能であると考えます。静清信用金庫の繋がりを利用すれば多くの加盟店を得ができるのではないかと思いました。
- 【井柳】 "ビジネスに関するセミナー・企業とのマッチング"
セミナーやマッチングを行うことで、SDGsに取り組むビジョンが明確ではあるがビジネスには詳しくない人たちを応援することが可能になるのではないかと思っています。



■今回の座談会を受けて、今後取り組みたいことは？

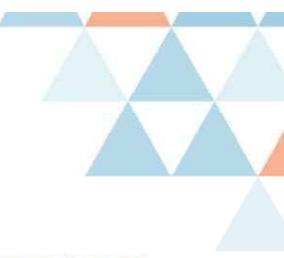
- 【芹澤】 今後就職した際、その企業の利益になるようなSDGsの企画を考えてみたいです。この活動で学んだことを生かせねばと思います。
- 【井柳】 改めてSDGsとの向き合い方を考えて、ビジョンをはっきりさせたいです。SDGs活動を持続的に行うにはビジネスプランも重要になりますが、まずはビジョンをはっきりさせる必要があると考えます。



■あなたのSDGs宣言は？

- 【芹澤】 「自分ができることを無理なく行う！」
無理して行うと続けられなくなってしまいます。継続して行うためにも、無理しないことが大切だと思います。
- 【井柳】 「SDGsを知らない人をゼロに！」
SDGsという言葉の認知度は高まっていますが、目標の内容や日常生活との関わりについて正しく把握・認識している人は多くないと思います。すべての人にもっとSDGsを身近に感じてもらいたいです。





学生×企業×SDGsの今とこれからを考えてみよう

イベント概要

株式会社 大丸松坂屋百貨店
松坂屋 静岡店

～地域に根差したSDGs経営～



松坂屋静岡店
鏡 詩織さん



静岡県立大学
鈴木 志歩さん



静岡大学
犬塚 咲蘭さん

「静岡市SDGs宣言書」への記載内容からSDGsへの前向きな取り組みや「地元・静岡とともにSDGsを」という熱い思いが感じられる松坂屋静岡店さまに取材をお願いし、犬塚＆鈴木ペアが主軸とする「真のSDGsとは何か？」の答えを探る企画を興しました。

当日に向けて

8/13 松坂屋静岡店にオンラインでインタビュー

8/31 松坂屋静岡店に現地視察

～注力したこと～

座談会の主軸「真のSDGsとは？」につながるワークショップの課題設定

→昨今のSDGsがファッショナ化してしまっている風潮を踏まえ、SDGsとは真にどうあるべきかを来場者とともに探る契機にします

当日の流れ

企業紹介・松坂屋静岡店に取材先に決定したきっかけ



松坂屋静岡店のSDGsの取り組み紹介



ワークショップ「真のSDGsとは？」

- ① 「今までやった/見聞きしたSDGsへの取り組みで今後も続ける価値のあるもの」と「今後はもう続ける価値のあまり無いもの」を挙げる
- ② では前者と後者の“差”ってなんだろう？

Q1. 座談会を通しての感想は？

犬塚 様々な年齢、職業の方々が交流しながらSDGsについて考える機会になったようで嬉しかったです。本企画のタイトルにある“×（掛ける）”の意味を成した座談会になりました。

鈴木 ひとまずホッとしました！結構予定詰めつめで犬塚さんと都合が合わない中だったので不安だらけだったでしたが、参加者もたくさんディスカッションしてくれて自分も楽しく過ごせました。

Q2. 座談会の良かった点、工夫した点について

犬塚 ワークにおいて、車座になってもらい様々な年齢・業種の方々が交流できる時間を設けたこと。活発な意見交換が行われ、盛り上りました。

鈴木 ワークは特に工夫していて、正解を考えるワークではなく「答えのない問い合わせみんなで考えてみよう」という雰囲気にしたかったので、ちょうど上手くいったのではないかなど思います！ただお話を聞くという会ではなく、座談会らしいアットホームな雰囲気でできたことは良かったと思います。

また、反省すべきポイントとして2人ともグループワークのグループ分けで学生と社会人が偏ってしまったことだと教えてくれました。

Q4. あなたにとって真のSDGsとは

犬塚 意識。「あ、これ環境に悪いな。直そう。」など、日々のふとした瞬間の意識が少しづつ世の中を良い方向に変えていくのだと思います。

鈴木 私にとって真のSDGsとは今回のようなみんなで考えることだと思います。SDGsのゴールはそれぞれが孤立してたてられた目標ではなく、全てを混ぜながら少しづつ達成していくものだと思います。一つでも独創になるよりかはみんなで少しづつできることをおこなっていきたいです。

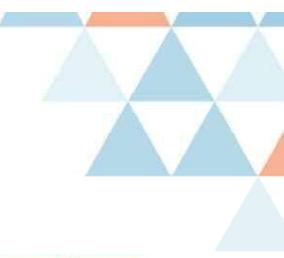
Q4. 今後、どのような活動をしていきたいか

犬塚 身近なところからSDGsの輪を広げていきたいです。小さなアクションが広がって、静岡市がSDGsのハブ都市のようにならいいなと思います。

鈴木 今後は自分が何をしたいのか、何をすればいいのかはっきりわかっていません。ですが、今回のように自分の思っていることを正直にぶつけてみんなで考えながら進んでいくことに興味があります。答えがない問いなので寄り道もしながらさまざま現状を知ってSDGsや環境に関して知見を深めていきたいです。

取材後記

座談会に参加して、2人のレポーターの考えと松坂屋の考えが非常のマッチしているように感じました。また、難しいテーマでしたが、非常に興味深いワークだったと思いました。



学生×企業×SDGsの今とこれからを考えてみよう

イベント概要

静岡よみかえる工房

～アップサイクルという視点～



皆さんの周りには捨てられないけど、売りたくないものはありませんか？

私たちは使わなくなったものに付加価値をつけて再生利用するアップサイクルの観点から、着物や帯をリメイクされている静岡よみかえる工房に取材を行いました。「着物や帯を今の時代にあったリメイクにするならどんなものが良いか？」というテーマを掲げ、皆さんと一緒に身近なものからSDGsを考える座談会を企画しました！

当日に向けて

① 取材先企業の決定(7月上旬)

八木と植松の興味関心である働きがいや雇用問題、アップサイクルの視点などの要素から「静岡よみかえる工房」の深澤さんに取材をお願いしました。

② しづおかよみかえる工房様へ取材(8/3)

静岡市葵区瀬名に工房を構える深澤さんに取材を行い、リメイク作品や作業現場などを見させていただきながら、工房立ち上げ経緯やリメイク作品の需要や顧客の変化等について伺いました。

③ 座談会の計画・準備・打ち合わせ等

当日のスライド資料作成、来場者向けのチラシ作成、深澤さんとの打ち合わせなど

当日の流れ

① SDGsってなに？

趣旨や目標などを説明

② 静岡よみかえる工房様の事業紹介/レポーターの取材報告

SDGsに関連した事業や取材活動で得られた情報を作品実物を見ていただきながらご紹介

③ ワークショップ「着物や帯を今の時代にあったリメイクにするにはどんなものが良いか？」

長い目で見て使えるものはどんなものなのか？また、今の時代のニーズに適した活用方法はないか？またリメイクを導入口として興味関心を誘うようなサービスなど来場者と共にリメイクの将来性や魅力的な活用方法を考えました。

Q 座談会を終えてどうでしたか

植松 座談会を通して参加者の方々と意見を共有すると、日常生活の中のものがSDGsとながっていることに気が付いた。SDGsが意外と身近であると改めて実感しました。

八木 リメイクされたものが、別の物の良さを知ってもらうためのツールとなり、サイクルが生まれると、ものを捨てずにつなげていけるようになると思います。

Q 座談会を開催するにあたり、難しかったところはありますか？

八木 取材したからこそわかっていることがある。座談会で知らない人に対してはどのようにどこから説明していくか非常に悩みました。

植松 SDGsを参加者がどこまで知っているのか。全く知らない人も、少し知っている人もいる。何をメインにSDGsについて伝えていくのか。私たちがどんな思いでSDGsを伝えたいかが難しかったです。

また、リメイク、女性雇用、働き甲斐と様々な視点があり、ワークショップの題材をそのうちのどれにするのか非常に悩んだそうです。

他にも座談会についてこんなことを伺いました！！

アットホームな座談会を目標に、着物を用意して触れられるようにしたり、着物を囲んで話し合うような形にする工夫をしたそうです。また、事前にお互いにあまり情報共有できていなかつた点が反省点だそうです。

着物に触れたことで、素材などの意外性に気づき、新たな発想を得られたように思います。また、テーマも身近に置き換えて考えることができました。

Q あなたのSDGs宣言を教えてください

植松 「いつでもどこでもSDGs」

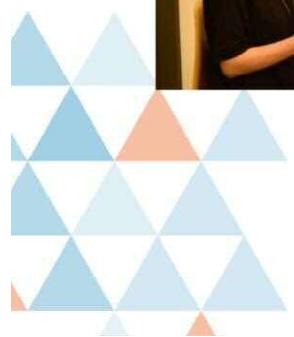
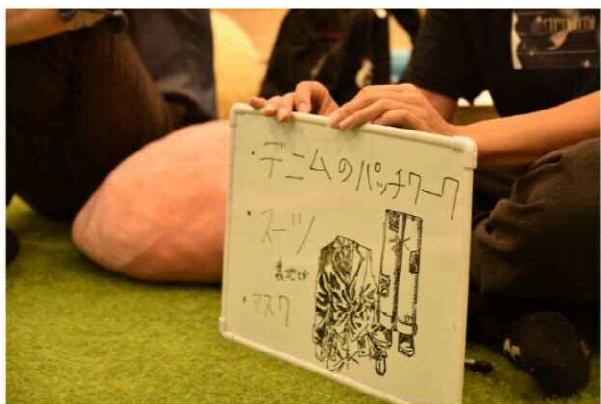
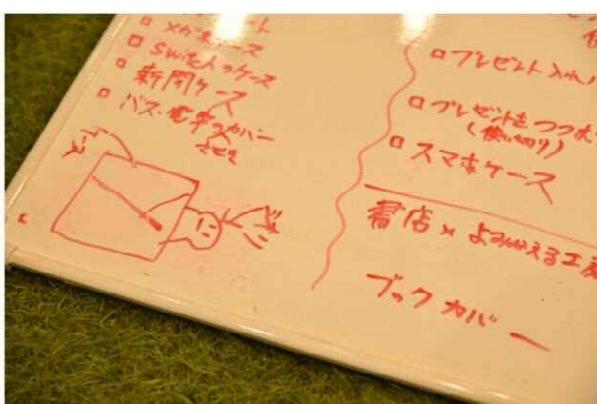
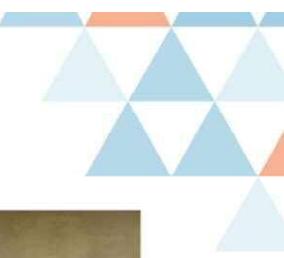
SDGsの同じゴールでも、もしかしたら日本と海外では認識が異なるかもしれない。SDGsを達成した時、私たちはいったい何を得るのだろうかなど、常に頭の片隅にSDGsを置いておき、考えることが必要である。

八木 「安易に捨てない、活用する」

まだ使えるものを簡単に捨てているという感覚が強い。そこで一度踏みとどまって、もしかしたら何か他のものに使えるのではないかと応用しようと生活の中ですることが重要だと考える。

編集後記

SDGsは認識も視点も人によって異なる。だからこそ、他の人の視点や認識を考えてみることが大切だと2人とも言っていました。まずはSDGsのことを知り、考えてみることで自分が日常生活のなかでSDGsに貢献していることに気が付けるかもしれません。



学生×企業×SDGsの今とこれからを考えてみよう

イベント概要

株式会社CSA不動産

～まちの魅力を高める取組～



株式会社 CSA 不動産
山田 綾乃さん



清泉女子大学
飯田 江梨花さん



静岡大学
遠藤 梨花さん

「地域開発」と「SDGs」。両者は一見すると遠いようで、実は深い関連性を秘めています。静岡市内のまちづくりにおけるSDGsの取組みについて調査するため、我々は2017年から用宗で地域開発事業を行っているCSA不動産のお力添えをいただき、『持続可能なまちづくりとは何か』について考える座談会を9月下旬に開催しました。

当日に向けて

①取材先企業の決定（7月上旬）

…「まちづくり」をキーワードとして取材先企業を検討・打診。

②CSA不動産への取材（7/26）

…開発事業地である用宗現地を訪問・取材。実際の事業内容を見学。

③用宗での街頭アンケート実施（8/27）

…用宗住民と観光客を対象に、用宗海岸前にてヒアリング調査を実施。

④座談会の企画・運営・準備（8月～9月）

…内容の打ち合わせ・資料作成・進行計画・座談会の宣伝等。



当日の流れ

そもそも、SDGsとは？



CSA不動産の事業紹介
学生レポーターの活動報告



グループワーク

グループワークのテーマは、 『おまちを元気に！私たちには何ができる？』

"おまち"と呼ばれる静岡市の中心市街地にこれからも持続的に人を呼び込むためには、具体的にどんなことができるのか。イベント企画や今ある物件の活用方法など、SDGsを念頭に置いたアイデアを参加者全員で出し合いました。

• 登壇してみての率直な感想は？

【遠藤】 ずっと緊張していたため、終わってホッとする気持ちが大きかったです。反省点も多く、力不足を痛感しましたが、無事に終了でき良かったです。

【飯田】 社会人の参加者が多く緊張しましたが、レポーターの仲間が頷きながら聴いていて励みになりました。また、グループワークでの活発な議論は嬉しく思いました。不安でしたが、貴重な経験になりました。

• ワークショップで印象に残った案は？

【遠藤】 お堀をプールにする、シャッターに絵を描く：今あるものをどう活かすか、というサステナブル的な発想に加えて、他にあまり例を見ない新しさを併せ持った斬新なアイデアであると感じました。

【飯田】 シャッターに絵を描く：商店街などの閉まっているお店のシャッターに自由に絵を描く案と、街迷路：静岡の街全体を迷路にする案です。

• 活動を通して学んだことは？

【遠藤】 SDGsは他人事ではないと気付けたことです。生活の何気ない行動が実はSDGsの一つだったと知り、SDGsの取り組みは考えていたほど難しいものではないと気付きました。また、メールのやりとりの過程でビジネスメールのルールについても学ぶことが出来たことも私にとって大きな変化です。

【飯田】 市内の多くの企業様、団体様がSDGsを意識し、想像以上の行動を起こしていることを知りました。また、取材やアンケートの活動を通し、どんな取り組みをしているかで企業を評価する社会になってきたことを実感できました。

• 座談会の前後でSDGsに対するイメージに変化はあったか？

【遠藤】 座談会を経て、一見関わりが薄いように見える"まちづくり"と"SDGs"の深い関連性を強く実感しました。サステナブルなまちとは、暮らしとは、という問い合わせ私たちの未来にも大きく関わっていることに改めて気付くことができました。

【飯田】 SDGsは国連が決めた、国際的な活動というイメージが強かったですが、自分の住んでいる身近なところでもSDGsの取り組みが行われており、街が活気づき、より良い方向に変化していることがよく分かりました。SDGsが近くにも広がってきているという認識に変わりました。

• 活動を経て、今後取り組みたいことは？

【遠藤】 意欲的に何かに取り組みたいと感じることが増えました。SDGsに関する発信をこれからも続けていくことに加えて、新たなチャレンジにも臆せず取り組む姿勢を持ち続けたいと思います。

【飯田】 消費者としてSDGsに貢献している企業の商品を選ぶことや、これからの就職活動で、企業などがSDGsにどのように取り組んでいるかを志望の判断材料にするなど、今私にもできることから始めたいと思います。

